

NEWS 01

令和5年度サイエンスプラス
東北職業能力開発大学校(栗原市)で開催

「科学の魅力」や「ものづくりの楽しさ」を
地域の子どもたちが体験

宮城県では、東北職業能力開発大学校と共催で、10月28日に「令和5年度サイエンスプラス」を開催しました。

小中学生を対象にした「楽しみながら学べるものづくり体験教室」として、栗原市内の企業・高校・大学校や県立高技専等がブースを出展。当日は大学の学園祭も行われる中、小中学生96人とその保護者が来場しました。

宮城県迫桜高等学校による「橋をつくって、ものづくりを楽しむ」は、厚紙を切って、丈夫な橋を組み立てるプログラム。子どもたちからは「難しかったけど完成して嬉しかった」「橋はこういうふううにできているんだと知ることができた」との感想が寄せられました。

また、講師として参加者に教えた生徒は「普段学んでいることをわかりやすく工夫して説明できました」と充実した表情で話してくれました。今回の経験



本棚作りに挑戦する親子



イライラ棒にトライ!

技の肖像

Portrait of Skills



代表・創作和菓子職人 幾世橋陽子さん

和菓子まめいち

代表・創作和菓子職人 幾世橋陽子さん

「スーパーきびだんご」「美人さんのおやつ」など、和菓子らしからぬ愉快なネーミングと、ひと口いただければ複雑に変化する絶妙な味わい。創作和菓子に添えられた菜に描かれる暖かみある菓子、デッサンと口上。そのすべてを手掛けるのが、和菓子職人の幾世橋陽子さん。語り口調も、実に明るくユーモラスだ。

食べることが大好きで、勉強より空を眺めていた子ども時代。仙台高校在学中、老舗和菓子店の継承者不足を伝えるテレビ番組を目にし「美味しいお菓子が食べられなくなる!」と、継承への使命感がわく。猛反対の両親を説得し京都の老舗和菓子店へ就職するが、その就職活動も普通ではない。進路指導の先生のアドバイスもあり「京都の老舗店に、思いを綴った『巻物』を送りました」と振り返る。

初めての場所と仕事に失敗も多く、東北出身の新人にとって言葉の壁も大きかったという。

当初配属されたのは販売と配達の部門。2年後、製造に携わりたいと「製菓衛生師」、3年後に「菓子製造技能士二級(和菓子製造作業)」を取得し製造部門への配属が叶う。

門への配属が叶う。上司や先輩の支援を得ながら手に入れた国家資格、会社では初の女性職人だった。しかし、両親と約束した「5年で戻る」という期限を迎え帰仙。

仙台で友人と開業した洋菓子と和菓子のカフェ。次は独り立ちして和菓子専門の出張販売。そして実店舗「和菓子まめいち」本町店を立ち上げ、定禅寺通店は2店舗目になる。「資金づくりのアルバイトで得た知識や経験、出会いも、すべてが私の財産です。自分が頑張っている姿は見た方がいい。誰かが見てくれていて、いざとなった時に力になってくれるはず」。

お問い合わせ

合同会社まめいち

所在地 仙台市青葉区春日町1-5
SKビル定禅寺2階A

TEL 022-302-4720

URL <http://wagashi-mameichi.com>



NEWS 02

技能五輪・アビリンピックの
選手団結団式を開催

11月2日、「第61回技能五輪全国大会」、「第43回全国障害者技能競技大会(全国アビリンピック)」の宮城県選手団結団式が、宮城県庁で行われました。副知事や県議会議長などからの激励の言葉を受け、技能五輪選手を代表して門間匠さん(宮城県古川工業高等学校)、アビリンピック選手を代表して千葉陽仁さん(宮城県立支援学校岩沼高等学校)がそれぞれ決意の言葉を述べ、大会に向けて士気を高めました。



結団式で決意も新たに大会に臨む選手団

NEWS 03

自動車整備士の卵たちが
切磋琢磨しあう一日に

11月19日、第5回みやぎ学生自動車整備技能コンクールが開催されました。県内の自動車整備専門学校等で学ぶ学生の技術水準向上等を目的とした本コンクールは今回が第5回目の開催。整備士を志す12名の学生がエントリーし、各々が研鑽してきた技能の正確性を競い合いました。午後は宮城日産自動車(株)・日産サテオ宮城による外部診断機を用いたデモンストラーションも行われ、参加者は興味深い表情で見入っていました。



真剣に整備課題に取り組む参加選手

月替わりの「ひと月の和菓子」

